



愛知陸協広報

第64号

2025年3月31日発行

一般財団法人 愛知陸上競技協会

〒460-0012 名古屋市中区千代田二丁目19番16号 ハレラニ千代田ビル301

電話 (052) 249-4363 ファックス (052) 249-4366

ホームページ: url <http://www.aichi-rk.jp/>

令和6年度を振り返って

専務理事 榊原 茂

アジア大会を1年余りに控え、瑞穂陸上競技場も徐々に姿を現してきました。協会としての準備はようやく始まったばかりです。これから加速して進められます。国際大会ということもあり、National Athletics Referee (NAR) 以上の資格が必要になってきます。詳しくは、審判委員会の調査を見てください。アジア大会が終了すると、アジアパラ大会が始まります。多くの審判員が資格を取り両大会を成功に導き、今後の愛知陸協の審判技術の向上につなげていきたいと思えます。

今年度から変更になった、国民スポーツ大会(佐賀)は天皇杯総合6位、皇后杯10位に終わりました。優勝はいずれも成年の部で男子10000m競歩で丸尾知司選手(愛知製鋼)、女子5000mで山本有真選手(積水化学)でした。

晩秋から冬にかけて、駅伝大会やマラソン大会が各地で開催されました。

都道府県駅伝は女子8位入賞、昨年度から大幅に順位を上げました。男子は故障や体調を崩す選手が多く出て、残念ながら22位に終わりました。

マラソンも各地で行われ、読売犬山ハーフマラソンに始まり、名古屋ウィメンズマラソン2025、鈴木亜由子杯穂の国豊橋ハーフマラソンで締めくくりました。

特に、名古屋ウィメンズマラソン2025は、東京の世界選手権出場への最終レースとして多くの報道陣や観衆が見守る中、最後まで、日本人選手と外国人選手が大接戦を演じ、優勝はケニアのチュペキルイ選手、2位に積水化学の佐藤早也伽選手が好記録でフィニッシュ、4位に上杉真穂選手、5位に加世田梨花選手と続けました。

2月16日に神戸で行われた日本選手権20km競歩大会で、愛知製鋼の山西利和選手が1時間16分10秒の世界新記録で優勝し、復活をアピールしました。また、同所属の丸尾知司選手が2位、諏方元郁選手が7位に入り競歩の愛知をアピールしました。

2024年は愛知陸上競技協会が創立されて90周年を迎え、12月21日に中京大学清明ホールで記念式典を行いました。後半は室伏広治スポーツ庁長官に講演をしていただき、大変有意義な時間を過ごしました。

今後、大きな競技会を控え多くの審判員のさらなる協力をお願いし、県民、市民の理解協力を得ながら、愛知陸協一丸になって頑張っていきたいと思います。

山西利和選手 世界新記録樹立 男子20km競歩

令和7年2月16日(日)、日本選手権20km競歩大会が、神戸市の六甲アイランド甲南大周辺コースで行われ、山西利和選手(愛知製鋼)が、以前の記録を26秒更新する1時間16分10秒の世界新記録で優勝しました。過去2回の世界選手権でも優勝している山西選手は、9月に東京で開催される世界選手権大会の代表にも決定、大活躍が期待されます。また、愛知製鋼は、2位に丸尾知司選手、7位に諏方元郁選手が入賞しました。



左が山西選手、右が丸尾選手



笑顔でガッツポーズ

愛知陸協創立 90 周年記念式典開催

令和6年12月21日(土)午後2時より、中京大学八事キャンパス清明ホールにて、愛知陸協創立90周年記念式典が500名の参加で開催されました。

梅村清英愛知陸協会長挨拶から始まり、来賓の風間明陸連副会長、大村秀章愛知県知事、広沢一郎名古屋市長の祝辞に続き、特別協力団体への感謝状贈呈、選手・功労表彰、秩父宮章受賞者表彰がなされ、第一部は終了しました。

第二部は、スポーツ庁長官の室伏広治氏の講演。ご自身の体験も踏まえ、パワーポイントを駆使され、指導者はもちろんのこと、特別参加の大学生や高校生も感激したようでした。講演の要旨につきましては、次ページ以降をご覧ください。



日本陸連副会長 風間 明氏



愛知県知事 大村 秀章氏



名古屋市長 広沢 一郎氏



式典での配布物

記 念 講 演

スポーツ庁長官 東京科学大学特命教授
室 伏 広 治

経 歴

陸上競技のハンマー投げ選手として2000年シドニー、2004年アテネ、2008年北京、2012年ロンドン五輪に出場。アテネ五輪では陸上・投擲種目でアジア史上初の金メダルに輝いた。

現役中の2007年に中京大学大学院体育学研究科にて博士号を取得。2011年同大学スポーツ科学部にて准教授を務める。2014年には東京医科歯科大学にて教授を務めると同時に、スポーツサイエンスセンターのセンター長にも就任した。

また、2014年に東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会スポーツディレクターに選任され日本オリンピック委員会理事、日本陸上競技連盟理事などを歴任し、2020年10月より現職に就く。

また2023年より政府代表として、世界アンチドーピング機構の執行委員を務めている。

『感動していただけるスポーツ界を目指して』

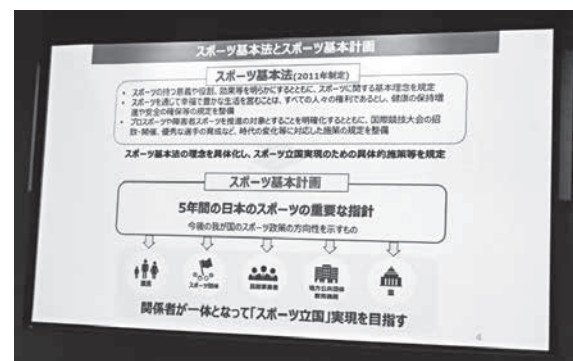
私は、中京大学に長くお世話になり、父も妹も大変お世話になりました。また私の現役時代に審判をされていた方も本日はご出席だと思いますが、お蔭さまでたくさんの日本記録を愛知県で更新させていただきました。陸上を愛する皆様と、こうしてご一緒させていただくことができ、大変光栄に思います。それでは、講演をさせていただきます。



さて、現在スポーツ界では禁止薬物や禁止成分が含まれた製品が手に入りやすくなっており、それが検査時の陽性反応につながる問題が生じています。アンチ・ドーピングの立場からこの問題に取り組むことはスポーツ庁の使命でもあります。我々はガバナンスコード（注：経

営統治においてガイドラインとして参照すべき原則・指針のこと）を作成し、各競技団体がそれに基づいて活動していくように、JOCやJPCと協力して話を進めています。

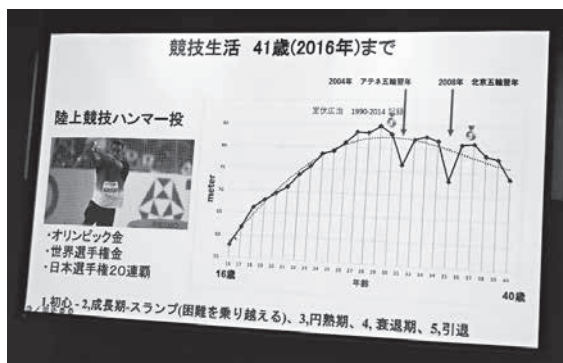
文部科学省の外局として10年前、2015年に設置されたスポーツ庁では、スポーツ基本法に基づいて政策を実施しています。現在は第3期のスポーツ基本計画の途中であります。競技スポーツだけでなく、グラスルーツ（注：地域に根付いた）のスポーツによる地方創生、スポーツの成長産業化、スポーツによる健康増進、障



害者スポーツとしてスポーツを楽しむなどについて各省庁と連携して元気が増えるように取り組んでいます。

また、スポーツ庁設立のもう一つのポイントとして、オリンピック・パラリンピックに向けての強化もあります。障害の有無に関わらず一体的に強化を進めています。パラリンピック選手をコーチングする方も増えてきていると思いますが、どちらも率先して取り組み、社会に示すことが大変重要です。

私は、父親の影響を受けてハンマー投げを始めました。シーズンベスト記録はスランプの時期などもありましたが、日本選手権を20連覇するほど長い間競技を続けることができました。ハンマー投げのハンマーは7.26kgの重さがあり、ボーリングの16ポンドと同じくらいの重さであります。サークルや投射できる角度もルールが存在しています。実際に投げる時には目で確認してから投げては間に合わないの、感覚的にハンマーを放すタイミングを決めています。また投擲距離を決める3条件は投射高、投射角、そして初速度ですが、初速度が最も重要です。ハンマーを80m投げる時には、ワイヤーに350kgの力が瞬間的にかかっています。

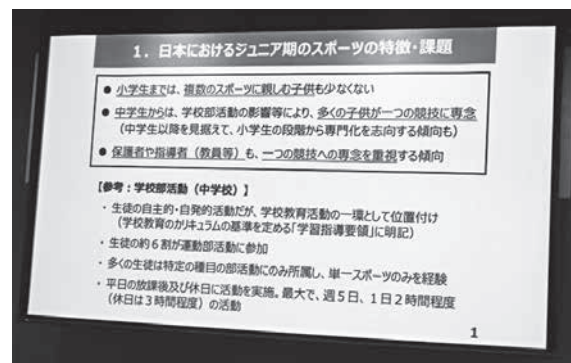


スポーツには成長期、スランプ、円熟期、衰退期の局面があって、最後は引退となります。自分は比較的長く競技を続けることができました。

また父からは、スポーツだけではなく、将来のことも考えるように、特に大学の先生は自分にテーマさえあれば研究に没頭できたり、学生の指導もできたりするいい職業だと言われてき

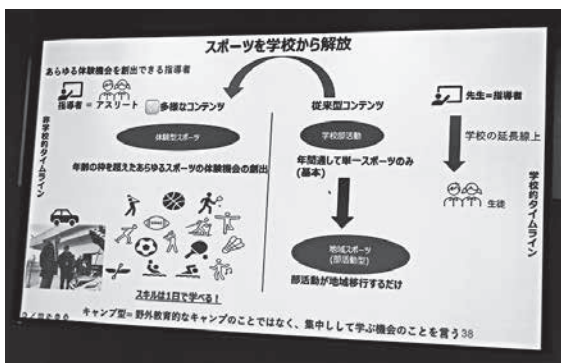
ました。このため、中京大学・大学院に進学しました。また父には物事を客観的に見ることが大切だと教わってきました。現在ではリアルタイムで自分のフォームを見ることができですが、昔は8mmフィルムや16mmフィルムで自分のフォームを撮影していましたので、現像するまでに1週間から10日かかっていた。現像して見直すと自分の思い描いたフォームと明らかに違う酷いフォームだったので、フォームを直すことに専念したら練習量が減っても記録が伸びました。皆さんも、自身の映像や声を撮って見ると思っていた姿と違うように、自分のことを意外によく分かっていないと思います。

大学の時の研究では、加速度計や張力計を使って計測したり、ターン速度を音に変換してデータを還元したりしていました。最近の研究では、ハンマロビクスという不規則的な運動や、紙風船を用いた重さに依存しないトレーニングを研究しています。関節に負担がかからないような、重さに依存しないトレーニングが可能になると、50代になっても長く競技を続けることができるようになります。また運動器の機能評価方法をつくる研究もしていますが、現場で使えて役に立つ研究しています。



次に、スポーツ庁の政策の一つとして、子供達が地域において多様で豊かなスポーツ活動に親しめるようにする改革に取り組んでいます。少子化や学校の働き方改革など将来を見据えて、学校部活動を地域に移行していくことが重要であると考えています。ジュニア期に複数のスポーツに親しんだり、受験や進学を経てもスポーツを継続したりするためには、地域での

受け皿が重要です。現場が混乱しないように教育長や自治体と協力して取り組む必要があります。「スカモンの発達曲線」を見ると、中学生くらいは身体がまだできていないので、正しいフォームや姿勢を適切な刺激として与えることが大切だと思います。高校まででバーンアウトせずに、大学や社会人で大活躍してほしい。このためにも大学スポーツを盛り上げて、目標を先に据えられるシステムにしないといけない。これまでに才能があるのに埋もれていった人を上手に育てていくためにも地域での活動は大切です。



私は「スポーツ開放宣言」と言っていますが、今の日本のスポーツは学校スポーツの延長線上にあります。やはり学校単位というよりは、生涯を通してスポーツに親しんでもらいたいと考えています。

大谷選手の二刀流ではありませんが、色々なスポーツに取り組むことで、スポーツのスキルを支える最低限必要なアスレティックなアビリティ・能力、さらにその下にある人としてのファンクションを高めなければなりません。またマルチスポーツに関する学会も開催されていますが、体験コーナーでは子供だけでなく親もやりたいという話になって親子で楽しむことができました。特に人口の少ない地域では色々なスポーツをすることで、交流人口も増えて活気が満ちてくると思います。

スポーツと芸術は切っても切れないものです。得点を入れたり記録を出したりすれば勝てるスポーツもあれば、新体操やフィギュアスケートは美しさが大切で完全にアートの世界に

なっています。もう少し広く考えると、太鼓や神楽は身体をかなり使う芸術だと思います。文化・芸術・スポーツを融合して取り組んでいくことを現在進めています。

2024年はオリンピック・パラリンピックのパリ大会で素晴らしい成績を収めました。2025年には世界陸上、デフリンピックなどが行われます。愛知県でも2026年にアジア大会・パラリンピック大会が開催されることになっています。アジアの関係者から注目していただくことは経済的にも意義のあることなので是非成功させたいと思っています。

ナショナルトレーニングセンターでは全国のアスリートを強化していくことになります。トップアスリートの原石は地域にあるので、地域で才能を発掘して育成することにも取り組んでいます。地域におけるスポーツ医科学の支援をしていくため各地域でコンソーシアムを作り、アセスメントとサポートという概念を入れてトレーニングに取り組んでいくことが重要になっています。アスリートに対しては各種チェックをして伸び悩んでいるポイントを特定し、必要なサポートをフィードバックしながら取り組み、また障害者対応指導ツールを作成して、インクルーシブなスポーツ環境を整備することも重要です。

最後に、私は競技を通して目先の勝負にこだわらず、身体の使い方や動き方を工夫しながら人間の身体に内在するすべての力をハンマーに注ぐことを大切にしてきました。選手の皆さん、競技ができる喜びや審判などの皆さんに支えられていることに感謝をしながら、今後も競技に取り組んで下さい。

本日は、ご清聴ありがとうございました。

(講演のまとめは愛知陸協広報委員会)



地区報告

名古屋地区陸上競技協会 名古屋地区に新競技場がオープン

美浜町運動公園陸上競技場・交流広場オープンセレモニーが6月30日、大村秀章愛知県知事はじめ国会、県会、町会議員など多数の来賓を迎え挙行されました。競技場のオープンまでに地元の区画整理事業、国土交通省、学校法人日本福祉大学等の様々な協力とご苦勞があったことなど、主催者の八谷充則美浜町長の挨拶からも伺えました。

競技場は、名鉄知多新線の知多奥田駅に隣接し大会の開催にも好条件な立地です。これで名古屋地区内には、スポーレ春日井に次ぐ5か所目の公認競技場が開場しました。

オープン後の競技会は、9月の名古屋地区小学校秋季記録会。10月の東海マスターズ大会、全国教育系大学対校戦。11月のエブリバディーデカスロン大会、日本福祉大学記録会と開催が続き、利用関係者も徐々に慣れ、これまで順調に運営できております。12月からは名古屋地区強化練習会や陸上教室と様々な活動が行われ、現在調整中の次年度競技日程でも多くの競技会開催、特にナイター記録会なども予定しております。

競技場は、自然豊かな環境と日本福祉大学に隣接し、大学のパラスポーツ練習拠点構想もあり、全国から注目を集める競技場となることと期待されています。



オープンセレモニーの様子

(水野 久)

尾張陸上競技協会

今年度のトラックシーズンは、熱波・雷雨等の影響があり中断を余儀なくされた競技会もありましたが、無事終わることができました。有観客での開催も常態化し、競技者と観客が一体となって盛り上がる競技会が続きました。そんな中、若い世代の競技者が力を発揮してくれました。全国高校総体では、水野颯也選手(津島東高)が男子1500mで5位入賞、白木康介選手(修文学院高)が男子ハンマー投で4位入賞・国民スポーツ大会で2位入賞、U18陸上競技大会では、西村鑑選手(犬山高)が男子走高跳で5位入賞、と健闘してくれました。全日本中学陸上競技選手権大会では、男子4×100mRで古知野中学が県代表で出場、全国中学校駅伝大会男子の部に大口中学が県

代表として出場し健闘してくれました。尾張選手権では、好天に恵まれ尾張新1、大会新5が誕生しました。男子では全日本実業団対抗陸上競技選手権大会やり投で8位入賞した牧野快士選手(修文大学教)が大会新で優勝、女子では日本学生陸上競技選手権大会ハンマー投8位入賞した中嶋日向子選手(中京大学)が尾張新・大会新で優勝し、ともに優秀選手に選ばれました。ただ種目によっては参加競技者がかなり減少しただけに、今後の普及が望まれます。



牧野快士選手



白木康介選手

全国高等学校陸上競技対校選手権大会出場選手

男子	800m	水野 颯也(津島東)
	1500m	水野 颯也(津島東)
	走高跳	伊藤 望亜(誠信)
	ハンマー投	白木 康介(修文学院)
女子	ハンマー投	向井 祐月(修文学院)

全日本中学陸上競技選手権大会出場選手

男子	200m	山本 翔太(古知野)
	1500m	西井 健真(大口)
		松永 惟吹(蟹江)
	4×100mR	古知野
		伊藤 慎友・山本 翔太
		竹内 章斗・木本 愛己
女子	100mH	坂井 華(甚目寺)

U18陸上競技大会出場選手

男子	走高跳	西村 鑑(犬山高)
女子	ハンマー投	松岡 煌星(修文学院高)
	ハンマー投	小島 芽依(修文学院高)

U16陸上競技大会出場選手

男子	100m	山本 翔太(古知野中)
----	------	-------------

国民スポーツ大会出場選手

少年男子A	ハンマー投	白木 康介(修文学院高)
少年男子共通	走高跳	伊藤 望亜(誠信高)

全国中学校駅伝大会男子の部出場選手

大口中学	池田 壮吾・服部 恵吾・一柳 航
高橋 累・西井駿乃介・西井 健真	

審判員不足に悩んだロードシーズンも終わり、いよいよ令和7年度が始まろうとしています。人手不足、登録者数減少の中、競技会運営を工夫していきますので何卒、ご協力のほど、宜しくお願いします。

(青山 充資)

西三河陸上競技協会

2024年を振り返って

今年もすべての競技会において、競技者が自分の持てる

力をすべて発揮しようと競技に臨んでいました。結果として優勝あるいは入賞した選手のはつらつとした笑顔、また自己記録を更新あるいは目標記録を達成した歓喜の声を聞くことができました。

さて、今年の夏は例年より暑い日が長かったように思います。熱中症対策として昨年同様、競技場によっては走り終わった競技者がしばらく体を冷やすために休憩するクーリングルームやミストシャワーを設置しました。また開始時刻を遅らせ、長距離種目を夕方に行うようなタイムテーブルの工夫もしました。マーシャルの方のお力をお借りして、体調不良者の早期発見にも努めてまいりました。

一昨年度は台風による競技中止となる大会もありましたが、今年度は雷雨により競技を中断した大会が2回あり、そのうち1回は再開後に再び雷鳴が聞こえてきたため、競技を中止せざるを得ませんでした。競技者の方にはご迷惑をおかけしました。また、盗撮が疑われる事案もあり、警察の方にも来ていただきました。

本年度、西三河陸上競技協会としての競技運営にたくさんの方が携わっていただきました。高体連の西三予選会を含めると審判員数は延べ2286名、小中学校の競技会でお手伝いとして補助審判に入ってくださいました方は145名、高校一般の競技会で高校生が補助員として参加していただいた数は592名でした。おかげをもちまして前述したような天候による中断等以外は大きな問題もなく無事終了することができました。紙面をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。数年前から競技者、審判員の減少が危惧されています。来年度も皆様のご協力をいただければと思います。

3月20、23日にプレシーズンとなる第3回西三河強化競技会をかわきりに、4月からは競技会が毎週のように開催されます。競技役員のみならず皆様のご協力をいただき、より多くの競技者が自己の能力をすべて発揮できるような環境づくり等の取り組みをしていきたいと思っています。そして競技終了後に達成感に満ちた競技者の表情を見ることを楽しみにしたいと思います。

(市川 陽明)

東三河陸上競技協会

令和6年を振り返って

正月の「ニューイヤー駅伝」でのトヨタ自動車の優勝から一年がスタートし、3月の穂の国ハーフマラソンに「鈴木亜由子杯」の冠が付き実施されました。8月のパリオリンピックには、東三河出身で共に豊橋南高校卒業の吉津拓歩選手と小川大輝選手が出場し、話題を提供してくれました。その後も、「東海中学総体」で豊橋東陵中学校の三高瑞久君が100mで県中学新記録で優勝したり、「全日本中学陸上」で田原東部中学校女子が4×100mRで優勝するなどの嬉しいニュースが届きました。

駅伝関係では、豊川高校が男女で全国大会出場を果たし、中学では豊川西部中女子が2年連続での全国大会出場を果たし豊川勢の活躍が目立ちました。

実業団の関係でも、「クイーンズ駅伝」で、伊澤菜々花選手の復活や鈴木亜由子選手の激走など、東三河にゆかりのある選手の活躍に勇気をもらいました。

このような結果は、選手個々の努力は勿論ですが、練習を支える指導者や家族の力も大きいです。これが「東三河の力」だと思います。紙面を借りて関係の皆様にご感謝を申し

上げます。

今後の課題・目標

- 役員の高齢化や不足には「若い人材の確保」が急務
- ・指導者や顧問、現役選手に呼びかけ、我々の仲間が増えることを期待したいと思います。
- 「これからの陸上界を支えるのは、あなた達である」
- ・役員確保のため、役員旅費の見直しを進めています。
- ・「駅伝・マラソン」大会等の役員確保では、出席調査への回答率が低く、編成に苦勞しています。各自日程調整をし、協会事業に是非協力をお願いします。
- 諸々の課題解決のために
- ・専門委員会を中心にアイデアを出し合い、組織的に対策を考えていきたいと思っています。
- 最後に、これからも「東三河」からより高いステージで活躍する選手が誕生することを楽しみにしながら協会運営を行っていききたいと思います。

(鈴木 政男)

委員会報告

選手強化委員会

都道府県対抗男女駅伝報告

令和7年1月12日(日)女子駅伝(京都)・19日(日)男子駅伝(広島)が行われました。何度も合宿とミーティングを重ね、強い絆を作り上げてきました。スーパーエース不在の今大会でしたが、もちろん目標は入賞。時間をかけて作り上げてきた絆と互いを思いあう心で、ゴールまでタスキを必死にかつ笑顔で運びました。

女子第43回・男子第30回、チーム愛知の選手および成績は次の通りです。

女子チーム 第8位 2時間18分49秒

区間	氏名(所属)	記録	区間順位
1区	川口 桃佳(ユニクロ)	19分32秒	8位
2区	火山 華(安城学園高)	12分55秒	13位
3区	市川 紗帆(六ツ美北中)	9分51秒	12位
4区	磯部 早良(豊田自動織機)	13分02秒	3位
5区	谷 凧紗(豊川高)	13分40秒	20位
6区	上野 寧々(名城大)	13分27秒	14位
7区	渡邊 杏梨(豊川高)	12分52秒	2位
8区	古川 蒼柊(阿久比中)	10分17秒	14位
9区	前田 彩花(関西大)	33分13秒	17位



男子チーム 第22位 2時間21分01秒

区間	氏名(所属)	記録	区間順位
1区	内山 椋太(名経大高蔵高)	21分00秒	39位
2区	藤田 翔蒼(豊川西部中)	8分37秒	3位
3区	竹内 大地(トエネック)	24分16秒	25位
4区	水野 颯也(津島東高)	14分40秒	14位
5区	小林 晴琉(時習館高)	25分28秒	25位
6区	石沢 聖成(藤岡中)	8分58秒	16位
7区	小林 亮太(東洋大)	38分02秒	21位



本年度も両大会において、愛知県人会の皆様から大会期間中たくさんのお励みとご厚情をいただきました。愛知陸協からも沿道・スタンドから熱心な応援をいただき、選手・スタッフ共々感謝いたしております。

大会関係各位、ご配慮いただいた所属チームの皆様方、愛知陸協の皆様には、深く感謝するとともにこの場をお借りしてお礼申し上げます。来年度再度優勝を目指し、一層の結束と強化を推進して参ります。今後ともご理解・ご協力をお願い申し上げます。

(明星 光信)

医事委員会

強化委員会医事部の活動について

愛知陸協強化委員会医事部は、1994年の愛知国体のトレーナー活動を皮切りに現在まで30年間、2024年度においては通算延べ198日、活動をしてまいりました。

強化委員会医事部に所属するメンバーは、医師、看護師、日本スポーツ協会公認AT(アスレティックトレーナー)、理学療法士、柔道整復師、鍼灸師、救急救命士等様々な有資格者と、ATを目指す学生とで構成されており、その専門性を活かしたアスリートへのアドバイスが可能です。

活動内容としては日本陸上競技連盟医事委員会トレーナー部のマニュアルに準ずる活動となり、試合におけるスリーステーション制を用いた救護活動、医務室での応急処置、カウンセリング、テーピング・ストレッチを含むコンディショニングを行い、また国民スポーツ大会や全国都道府県対抗駅伝、U16日本選手権リレー等の遠征へも帯同させていただいております。

特に愛知陸協強化委員会医事部の本質としては、愛知県は多くのオリンピック出場選手を輩出している地区であり、そこで将来的に世界で戦えるような素質のあるジュニア期の選手がスポーツ外傷・障害によりその夢を断たれることがないように応急処置を徹底することや、小学生から

シニアにかけてのアスリートのスポーツにおけるケガ予防の啓蒙・啓発活動を積極的に行ってきました。全国的に見てもこの規模での組織立った医事部トレーナー活動は愛知県のみです。そして現在も日本一安全な陸上競技大会を行う県を目指して積極的に活動を継続させていただいております。もちろんこの活動が長年継続できたことは、愛知陸協の役員の皆様をはじめ、強化に携わられた先生方、試合運営・審判の先生方の協力がなくては決して継続できなかったことで、強化委員会医事部のメンバー一同深く感謝しております。今後も献身的な活動を行っていく予定ですのでご指導よろしくお願ひ申し上げます。



待機するトレーナーのメンバー

(佐藤 文能)

競技団体報告

実業団

2024年度の主要大会に入賞された選手の結果をご報告します。

この大会をバネに2025年度東京で開催される世界陸上大会の出場権をつかみ取りに行きます。実業団選手の活躍に乞うご期待ください。

日本選手権(6月25日～6月30日/新潟)8位入賞者

種目	順位	氏名	記録	所属
400m	4位	川端 魁人	46秒24	中京大クラブ
1500m	7位	野口 雄大	3分40秒35	トエネック
5000m	3位	鈴木 芽吹	13分17秒75	トヨタ自動車
3000mSC	3位	新家裕太郎	8分25秒45	愛三工業
	6位	佐竹 勇樹	8分32秒33	トエネック
400mH	7位	小田 将矢	49秒44	豊田自動織機
円盤投	2位	湯上 剛輝	58m51	トヨタ自動車
棒高跳	1位	山本 聖途	5m50	トヨタ自動車
100mH	4位	大松 由季	13秒15	CDL

全日本実業団 (9月21日～23日 山口) 8位入賞者

種目	順位	氏名	記録	所属
400mH	4位	小田 将矢	50秒23	豊田自動織機
1500m	3位	野口 雄大	3分41秒91	トーエネック
	4位	柳本 匡哉	3分42秒44	愛三工業
10000m	1位	エバンス・ケイタニー	28分10秒29	トヨタ紡織
	7位	吉居 大和	28分13秒10	トヨタ自動車
3000mSC	1位	フィルモン・キブラガット	8分28秒25	愛三工業
	2位	新家裕太郎	8分29秒17	愛三工業
10000mW	1位	山西 利和	38分27秒34	愛知製鋼
	2位	丸尾 知司	38分40秒26	愛知製鋼
	7位	諏方 元郁	39分03秒92	愛知製鋼
4×100mR	8位	若杉・前畑 服部・岡田	41秒73	小島プレス
円盤投	1位	湯上 剛輝	56m97	トヨタ自動車
やり投	8位	牧野 快士	68m53	修文大教
ハンマー投	8位	墨 訓熙	53m12	小林クリエイト
1500m	2位	ヘレン・エカレ	4分05秒53	豊田自動織機
5000m	2位	ヘレン・エカレ	15分09秒81	豊田自動織機
100mH	5位	大松 由季	13秒16	CDL
4×100mR	5位	遠山・新垣 菅沼・井貝	49秒35	トヨタ自動車
	7位	山形・新木 中尾・西川	49秒35	小島プレス
走幅跳	4位	明星 光	6m19	山田商会
三段跳	5位	加藤 早紀	12m09	FOuR PROJECT
やり投	7位	田中 友梨	50m17	至学館クラブ
	8位	山形 智香	48m26	小島プレス



復活優勝を飾る山西選手
(先頭から優勝の山西選手、2位の丸尾選手、7位の諏方選手)

国民スポーツ大会 (10月11日～14日 佐賀)

種目	順位	氏名	記録	所属
300m	6位	吉津 拓歩	32秒71	ジーケーライン

400mH	3位	小田 将矢	49秒23	豊田自動織機
10000mW	1位	丸尾 知司	38分43秒63	愛知製鋼
300m	6位	吉田 紗弓	38秒03	クレイン
5000m	1位	山本 有真	15分50秒98	積水化学

第44回全日本実業団対抗女子駅伝競走大会 (クイーンズ駅伝) 結果
11月24日 宮城
豊田自動織機 2時間18分15秒 第12位

第69回全日本実業団対抗駅伝 (ニューイヤー駅伝) 結果
1月1日 郡馬
トヨタ自動車 4時間48分36秒 第3位
(中村 博之)

OB・OG会

OB・OG会2024年度総会は7月17日、名古屋市内のホテルで開催しました。今回は規約の一部見直しを行い、競技役員はじめ陸上関係者皆さんのサロン活動となる会を今後も目指すよう改定しました。具体的には、これまで会員の長寿お祝いをしてまいりましたが、経費・財源の見通しが今後更に厳しくなると試算、大先輩のこれまでのご尽力には感謝しつつも、お祝い品の贈呈事業を廃止としました。更に、年間の事業計画も見直し参加の会費自己負担を原則とすることや、会員の募集活動も積極的に進めることを確認しました。

今後も愛知陸協OB・OG会は、愛知の陸上に関わる方たちの親睦友好、陸上競技の発展に寄与する活動を継続してまいります。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

今年度の年間行事計画で11月6日、32名の参加により名古屋大須演芸場古典芸能鑑賞会を実施しました。鑑賞を前に大須商店街の鰻料理店に集合。「うな丼」を味わいながら陸上談義と共に美味しくいただき、演芸場での鑑賞でした。お腹も心も満腹な一日でした。

今後も各地区世話人により、趣向をこらした企画を提供してまいります。

入会希望の皆様、地区世話人または大会開催時に本部役員までお問い合わせください。大歓迎です。



大須演芸場の前にて

(水野 久)

競技会報告

トヨタ自動車の太田智樹選手が日本新記録

ハーフマラソンで日本人初の60分切り

2月2日(日)に、香川丸亀国際ハーフマラソン大会が行われました。高低差が少なく、学生の大会も合流、ペースメーカーも初めてということで、好記録の期待が高まりました。

パリオリンピックに10,000mで出場したトヨタ自動車の太田智樹選手は、1kmを2分50秒を切るハイペースを守り、日本人として初めて60分を切る59分27秒で走り3位でゴールしました。

今後のトラックシーズンの10,000mの活躍で、今年の9月に行われる東京世界陸上大会への期待も高まりました。



タイマーの前で

第42回全日本大学女子駅伝対校選手権大会

2024年10月27日(日) 6区間 38.0km
弘進ゴムアスリートパーク仙台発着

4 名城大 2.06.02

(米澤奈々香・上野 寧々・石松愛朱加・瀬木 彩花
原田 紗希・谷本 七星)

令和6年度愛知県高等学校駅伝競走大会

2024年11月2日(土) 一宮市大野極楽寺公園・木曾川沿川サイクリングコース

順位	男子7区間 約42km	女子5区間 約21km
1	名経大高蔵 2.07.52	豊川 1.10.19
2	豊川 2.08.01	岡崎城西 1.13.31
3	愛知 2.08.49	愛知 1.13.41
4	豊田大谷 2.09.34	人環大岡崎 1.13.44
5	岡崎城西 2.13.23	安城学園 1.15.29
6	中京大中京 2.13.43	中京大中京 1.17.06
7	時習館 2.13.57	旭丘 1.18.11
8	愛知黎明 2.15.38	瑞陵 1.18.46



女子のスタート直後

第73回愛知県中学校駅伝大会

2024年11月9日(土) 新城総合公園陸上競技場周回コース

順位	男子6区間 18.05km	女子5区間 12.65km
1	大口 58.22	豊川西部 44.25
2	牟呂 59.23	鳳来 45.02
3	六ツ美北 59.26	阿久比 45.13
4	雁が音 59.29	新香山 45.29
5	本郷 59.39	刈谷南 45.54
6	阿久比 59.43	矢作北 46.07
7	岡崎南 1.00.08	春日井中部 46.08
8	知多 1.00.16	江南北部 46.30

第64回中部実業団対抗駅伝競走大会

2024年11月10日(日)

はなとき通り～はなとき通り 7区間 80.5km

1	トヨタ紡織	3.51.03	大会新記録
2	トヨタ自動車 A	3.52.12	
3	トーエネック	3.55.29	
4	愛知製鋼	3.56.23	
6	愛三工業	3.57.33	
7	中央発條	3.57.51	

第44回全日本実業団女子駅伝競走大会

2024年11月24日(日) 6区間 42.195km

松島町文化観光交流館前→弘進ゴムアスリートパーク仙台

12	豊田自動織機	2.18.15
----	--------	---------

女子第35回・男子第73回東海高等学校駅伝競走大会
2024年11月24日(日) 山県市四国香りの森公園特設コース

順位	男子 7 区間 42km	順位	女子 5 区間 21.0975km
1	豊川 2.04.41	5	豊川 1.11.26
3	愛知 2.05.16	6	岡崎城西 1.11.29
7	豊田大谷 2.07.25	8	人環大岡崎 1.11.50
8	名経大高蔵 2.07.26		

男子 区間賞

区間	氏名	所属	記録
4区 (8.0km)	稲垣 諒也	愛知	23.53
6区 (5.0km)	嶋岡 希	豊川	14.36

女子 区間賞

区間	氏名	所属	記録
3区 (3.0km)	秋竹 奏音	豊川	9.41



美浜で開催の東海学生駅伝

第32回全国中学校駅伝大会
2024年12月15日(日) 滋賀県希望が丘文化公園芝生ランド

女子 5 区間 12.0km

30 豊川西部 45.07

(熊本みくる・今村かのん・戸田妃奈美・大柴 妃希
近藤紗杏弥)

男子 6 区間 18.0km

16 大口 59.23

(池田 壮吾・服部 恵吾・一柳 航・高橋 累
西井駿乃介・西井 健真)

第17回愛知県市町村対抗駅伝

2024年12月7日(土)

モリコロパーク特設コース 9 区間 30.2km

順位	市の部		町村の部	
1	岡崎市	1.35.49	阿久比町	1.41.32
2	名古屋市	1.38.46	大口町	1.43.46
3	豊橋市	1.39.26	東浦町	1.44.31
4	刈谷市	1.40.43	幸田町	1.45.57
5	知立市	1.40.48	蟹江町	1.45.57
6	田原市	1.40.54	扶桑町	1.46.42
7	西尾市	1.41.07	設楽町	1.47.57
8	豊田市	1.42.21	大治町	1.53.11

岡崎市は3連覇

阿久比町も3連覇



大画面で戦況を見守る観客

男子第86回 女子第18回東海学生駅伝対校選手権大会
2024年12月8日(日)美浜町運動公園陸上競技場発着

順位	男子 6 区間 54.9km	順位	女子 5 区間 21.1km
2	名古屋大 2.48.32	1	名城大 1.09.44
3	愛知工業大 2.49.00	3	日本福祉大 1.13.19
4	中京大 2.49.48	5	中京大 1.19.41
7	愛知教育大 2.59.21	6	至学館大 1.20.34
		7	中部大 1.28.37

名城大は18連覇

2024年愛知陸協駅伝競走大会
2024年12月15日(日) ウェーブスタジアム刈谷発着

順位	中学女子の部 4 区間 11.2km	中学男子の部 4 区間 11.2km
1	KMR A 45.39	六ツ美北 A 39.15
2	矢作北 A 45.51	SQUAD A 40.07
3	新香山 46.46	雁が音 A 40.13

順位	高校男子の部 4 区間 16.8km	高校女子の部 4 区間 11.2km
1	愛知黎明 A 58.21	豊田大谷 44.28
2	愛知黎明 B 58.42	瑞陵 A 46.52
3	瑞陵 1.01.54	瑞陵 B 47.14

順位	一般男子の部 4 区間 16.8km	市民ランナーの部 4 区間 11.2km
1	IARC 56.27	名古屋南高 44.30
2	IARC 名古屋 58.49	竜海中 A 45.07
3	愛知大 1.00.03	AC 一宮 45.31

女子第36回 男子第75回 全国高等学校駅伝競走大会
2024年12月22日(日)たけびしスタジアム京都府特設駅伝コース

女子の部 5 区間 21.0975km

15 豊川 1.10.42

(谷 風紗・秋竹 凜音・秋竹 奏音・小山 和月
渡邊 杏梨)

男子の部 7 区間 42.195km

25 豊川 2.07.59

(神田 悦士・鷲野 遥都・大沼 光琉・伊藤 颯汰
服部 連斗・嶋岡 希・吉村竜友健)

34 名経大高蔵 2.09.18

(神崎 晴彦・田中 智稀・小松 映智・内山 椋太
鷲見龍之介・原田 侑宣・尾関 柊太)

第12回全日本大学女子選抜駅伝競走

2024年12月30日(月) 7区間 43.4km
富士山本宮浅間大社前～富士総合運動公園陸上競技場

8 名城 2.26.53

(柳楽あづみ・米澤奈々香・近藤 希美・瀬木 彩花
谷本 七星・原田 紗希・山田 桃子)

第69回全日本実業団対抗駅伝競走大会

2025年1月1日(水・祝)
ニューイヤー駅伝コース 7区間 100km

3 トヨタ自動車 4.48.36

(吉居 大和・鈴木 芽吹・太田 智樹・サムエルキバティ
西山 雄介・湯浅 仁・田中 秀幸)

16 トヨタ紡織 4.54.21 28 トーエネック 4.58.28
25 愛知製鋼 4.57.57 31 中央発條 5.00.08
27 愛三工業 4.58.19

第108回日本陸上競技選手権大会・室内競技

2025年2月1日(土)・2日(日) 大阪城ホール

日本選手権

種目	順位	氏名	所属	記録
男子60m	7	本郷 汰樹	オノテック	6.72
男子60mH	1	西 徹朗	早稲田大	7.75
女子60mH	5	大松 由季	CDL	8.22
	7	安藤 愛未	加藤建設	8.39
女子走高跳	5	矢野 夏希	早稲田大	1.71



日本選手権 男子60mH

U20

種目	順位	氏名	所属	記録
男子棒高跳	3	谷口 海斗	中京大中京高	5.00
女子60m	2	坂本 茜	中京大中京高	7.58
	3	佐藤 俐有	至学館高	7.60
	4	岡田 翠	中京大中京高	7.60
	6	橋本 清愛	安城学園高	7.64
	7	神谷 朱里	至学館高	7.65
女子走幅跳	7	水野文由里	中京大中京高	5.50

U18

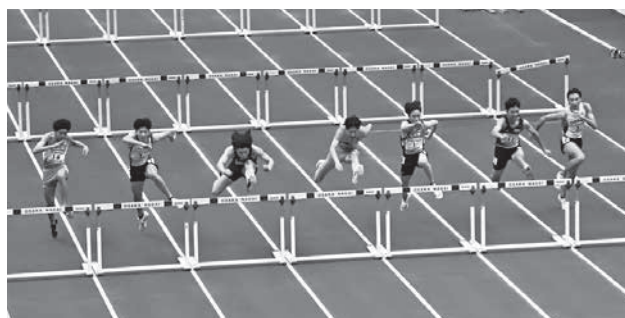
種目	順位	氏名	所属	記録
男子60mH	7	セントンゴシャリフ大賀	至学館高	8.05
女子60m	1	布施 一葉	中京大中京高	7.62
	8	八代 理衣	愛知陸協	7.79



U18 女子60m

U16

種目	順位	氏名	所属	記録
男子60m	3	佐々木 悠	NA	7.03
男子60mH	1	小木曾蒼真	TSM	7.97



U16 男子60mH

第53回全日本実業団ハーフマラソン大会

2025年2月9日(日) 山口循環ハーフマラソンコース

8位入賞分

順位	氏名	所属	記録
3	西澤 侑真	トヨタ紡織	1.00.28
6	田中 秀幸	トヨタ自動車	1.00.43

男子団体の部

(上位3名の合計順位)

順位	所属	氏名
2	トヨタ自動車	(田中 秀幸・野村 優作・内田 隼太)
3	トヨタ紡織	(西澤 侑真・小野寺 悠・白鳥 哲汰)

第108回日本陸上競技選手権大会・20km競歩

第36回U20選抜競歩大会

2025年2月16日(日) 六甲アイランド甲南大学 西側20kmコース

日本選手権 男子20km競歩

順位	氏名	所属	記録
1	山西 和利	愛知製鋼	1.16.10 世界新記録
2	丸尾 知司	愛知製鋼	1.17.24 世界歴代10位
7	諏方 元都	愛知製鋼	1.18.42

U20 男子 10km競歩

順位	氏名	所属	記録
8	伊藤 青羽	松蔭高	42.52

愛知県勢は、U20 に、男子女子共に6名参加。



甲南大学グラウンドで

第108回日本選手権クロスカントリー
2025年2月22日(土) 福岡・海の中道海浜公園

男子 10km

順位	氏名	所属	記録
8	新家裕太郎	愛三工業	29.06

第44回読売犬山ハーフマラソン
2025年2月23日(日) 犬山ハーフマラソンコース

男子ハーフマラソン (GR: 大会新記録)

順位	氏名	所属	記録
1	中西 玄気	愛三工業	1.03.04 GR
2	小島 准	流通経済大	1.03.06 GR
3	阿部 紘也	山梨学院大	1.03.10
6	鈴木 洋平	愛三工業	1.03.17

女子ハーフマラソン

順位	氏名	所属	記録
1	古賀 夕貴	庄内 RT	1.18.33
4	平山 璃奈	愛知電機	1.21.19
6	坂川真由美	AC一宮	1.22.08

44 回目を迎えた読売犬山ハーフマラソンが、快晴微風の絶好のコンディションの下で行われた。

10km の参加者約 1,000 名が 9 時 45 分にスタート後、ハーフマラソン参加者が、登録者、豪傑、猛者、つわもの、初陣と約 5,000 人が順々にスタートし犬山市内を駆け抜けた。男子では大会新記録が 2 つ生まれるなど、盛り上がった大会となった。



犬山城をバックに



木曽川沿いをラストスパート

名古屋ウィメンズマラソン2025
2025年3月9日(日) 名古屋ウィメンズマラソンコース

絶好のマラソン日和に恵まれ、東京世界陸上の選手選考会を兼ねた名古屋ウィメンズマラソン 2025 が実施された。マラソンの部には、15,804 名が出走、完走率は 97% であった。



号砲と共にスタート

順位	氏名	所属	記録
1	シェイラ チェブキルイ	ケニア	2.20.40
2	佐藤早也伽	積水化学	2.20.59
3	ユニスチュビチー チュンバ	バーレーン	2.21.35
4	上杉 真穂	東京メトロ	2.22.11
5	加世田梨花	ダイハツ	2.23.05
6	イソベル パットドイル	オーストラリア	2.23.29
7	ナトーシャ ロジャーズ	アメリカ	2.23.51
8	リアン ポンペアーニ	オーストラリア	2.24.53

同時に行われた愛知県選手権の結果

順位	氏名	所属	記録
1	下山田絢香	TT ランナーズ	2.40.15
2	古賀 夕貴	庄内 RT	2.45.45
3	堀木なお子	長久手 RC	2.53.20



おめでとうございます。

特集記事

三連覇を達成して

今年は、チーム初の三連覇(5 回目の優勝)がかかる 1 年だった。今回は、正選手選考に苦労したり、選手の当日までのコンディショニングにも気をもんだりしたが、各選手が計画的に練習や準備をしてきた。

大会当日は、1区の中学生女子が3年連続の区間賞を獲得する圧巻の走りでタスキ渡しをした。2区で大口町にトップを譲るも、粘り強い走りでタスキをつなぎ、3・5区の小中学生男女が共に区間賞の走りで差を縮めた。他の区間も強い選手のそろそろ4・6・7区も粘りの走りで8区で逆転。さらに後続を突き放し、9区アンカーで首位を守りきり、三連覇のゴールテープを切った。前回より2分近くタイムを縮め、市を含めた全体でも8位という輝かしい成績を残した。

今回の三連覇を達成できた要因は、1区で首位をとれていることが大きい。長い距離区間の一般男女、40歳以上の選手たちを確保できているのが何よりの強みである。また、今回走った選手9人のうち7人が過去に愛知駅伝で走った経験があったことや、選手の中に父母姉妹や兄弟がいて、ファミリーの強い絆でタスキをつないだこともある。さらに、毎回、現地やTVでの町民のみなさんの応援が多く、選手の背中を押した。また、町関係者のサポートの協力体制も毎回整っていた。

最後に、来年は四連覇(6回目の優勝)がかかる。継続して勝つことは、簡単ではなく、プレッシャーも大きい。しかし、心を一つに「チーム阿久比」として日々の練習や準備を計画的にがんばっていきたい。



阿久比町初の三連覇！(写真提供阿久比町)

(阿久比町駅伝チーム監督 鈴鹿 敦)

やめられない400mH

時間が経つのは早いもので、今年で30歳になります。最近になって、よく聞かれるようになったことが2つあります。1つは、「いつまで競技を続けるのか」、もう1つは、「いつ結婚するのか」です。後者については一旦置いておくとして、前者について少しお話をさせてください。

いつまで競技を続けるか、私には明確な基準がありません。それは、「自分に可能性を感じられなくなったら」です。抽象的な表現かもしれませんが、合理的な基準だと思っています。競技を続ける以上、更なる記録・結果を追い求めることは必然です。そんな中で、今後の自分に可能性を感じられなくなったら、どうでしょうか。そのまま続けることは、とても辛く苦しいだろうと想像できます。レベルが一生上がらず、進捗もないゲームにわざわざお金と時間をかけてプレイする人はきっといないでしょう。ただ、頑張っていれば、何かが起こるかもしれないと信じてプレイする人はいるかもしれません。

ここで大事なのは、「なぜ可能性を感じられているか」です。単に自分自身の可能性を信じるのではなく、信じられるロジックがあるかどうかです。

そう考えると、400mHには、可能性を感じ得る要素がたくさんあります。体の機能面では、加速の立ち上がりの速さ、最高速度のポテンシャル、解糖系の能力…etc。レー

ス面では、1台目の入り方、10台のハードルの越え方、出力の調整、ストライドの調整・歩数の切り替え…etc。それぞれの要素について様々な練習があり、その上でレースでの各要素の再現性が試される訳です。つまり、完璧な400mHのレースを完遂することは、至極困難だということです。もちろん、レースに向けた完璧な練習を検討・実行するのも然りです。

私思うに、400mHという種目は沼です。初めて足を踏み入れて以来なかなか抜け出せず、15年もの年月が経ちました。そろそろ抜け出してくれと思っている同業者も少なからずいるかもしれませんが、まだまだ頑張ります。自分の可能性を感じられる限り。



佐賀スポにてコーチの水野さんと共に

(豊田自動織機 小田 将矢)

私の飛躍と決意

今年度はこれまでの私の陸上人生の中で、最も成長することができた1年間だった。

昨年の3月下旬、調子良く春合宿で練習を積んでいたが、突然の怪我・貧血に悩まされ、全く思うような走りができず、4月から7月のトラックレースは一度も出場することができずに終わってしまった。

7月下旬から8月にかけて行われた夏合宿では怪我・貧血を克服してはいたものの、なかなか練習についていくことはできず、9月の選抜合宿期間は名古屋に残って練習することになった。強い同期のみんなが合宿に行っている中、名古屋に残されたことがとても悔しかった。私はその悔しさから「絶対に秋のトラックレースで結果を出す」その一心で残暑の中、練習に励んだ。

10月、私は全日本大学女子駅伝の選考を兼ねた3000mと5000mのトラックレースに出場することになった。約10ヶ月ぶりのトラックレースだった。でも走れなかった期間に補強などを取り入れ、弱い部分を強化し、しっかり練習を積んできていたのでどこまで自己ベストを更新できるのか楽しみだった。結果、3000mで19秒、5000mで28秒と予想以上に自己ベストを更新することができた。そして私の大学4年間の一歩の目標であった全日本のメンバー入りを果たした。初めての全日本でレベルの高い選手と走り、たくさんの刺激をもらうことができたのでとてもいい経験となった。また1月には都道府県駅伝にも呼んでいただき、愛知県チームの皆さんと入賞という目標を果たせてとても嬉しかった。この経験を来年度にも繋げていきたい。

今年度はたくさんの新しい経験をして「まだまだ自分には伸びしろがある」「もっと強くなれる」と思った。大学ラストイヤーはさらに飛躍した1年にするため、恵まれた環境の中で競技ができることに感謝し、日々精進していく。



都道府県対抗駅伝会場で 右から2人目が上野選手
(名城大学 上野 寧々)

全国の舞台を経験して次のステージへ

僕の人生において高校3年間の陸上競技での経験は非常に貴重なものとなりました。特に、インターハイでの5位入賞と都道府県対抗駅伝での4区区間14位という結果は、僕にとって大きな自信となりました。

インターハイは、全国の強豪選手が集まる大舞台です。そこで5位入賞という結果を残した時、3年間の努力が実を結んだ瞬間でした。

レース当日は、緊張と興奮が入り混じる中、先生方や仲間、マネージャー、友達のサポートや応援が力となりました。スタートラインに立った瞬間、自分が3年間やってきたことを思い返し、一瞬で緊張がほぐれました。

そして、レースが始まりゴールに向かって走る中で、限界を感じながらも、最後まで全力を尽くすことができたのは、多くの方々のおかげだと実感しました。

そして、全国都道府県対抗駅伝では、4区を走る機会をいただきました。ここでの区間14位という結果は、僕にとって貴重な経験となりました。駅伝は単独での戦いではなく、チーム全体の力が試されるものです。走りながら、自分だけでなく、愛知県チームの想いや期待を背負っていると感じ、より一層の責任を感じました。この経験を通じて、チームワークの重要性や、自分の役割を果たすことの大切さを学ぶことができました。また、自分と他選手との力の差を感じることもできました。

高校での成果は、僕は通過点だと思っています。今年は高校から大学陸上へと変わります。高校では、インターハイ出場を目標に3年間やってきましたが、大学では日本代表として国際大会に出場したいと思っています。そして、日本の陸上界を担う選手となり、多くの人に感動を与えられる存在になれるよう感謝の気持ちを忘れず、日々努力を続けていきます。

(津島東高校 水野 颯也)

日本中学新記録を出して

日本選手権リレー競技男子U16において、愛知県中学選抜チームが41秒14という驚異的なタイムで優勝し、日本中学新記録を更新することができました。この記録は、実に16年ぶりの日本中学記録の更新で、中学生の走るリレーで、まだどこも成し遂げたことのない夢の40秒台ま



全国高校総体男子1500m決勝ゴール付近

であと一步のところでした。このような結果が出せたことは、日ごろの各所属の先生方、クラブチームのコーチの尽力、また、愛知県ジュニア強化部で行っていただいている強化練習など、様々な支えがあったからこそその結果だと考えています。今後も各方面にご協力いただき、選手がより一層活躍できる環境を整えていきたいと思っています。

選手及び監督の声を伺いました。今後の励みにしていただければと思います。

【1走 小島 昊大 (岡崎市立東海中学校)】

優勝、そして日本新記録、本当に嬉しかったです。とても緊張したけど、仲間を信じてバトンを渡し、自分にできることを精一杯頑張ったよかったです。最高の仲間と共にできたこの経験をいかして、これからも頑張ります。

【2走 星野 月音 (田原市立東部中学校)】

練習では、みんな意識が高く、一回一回の練習を大切にし、とても刺激になりました。たくさんハプニングがあったけど、目標であった日本中学新記録を出すことができ、とても嬉しかったです。この経験を生かして高校ではインターハイを目指したいです。

【3走 浮田 兆 (名古屋市立志段味中学校)】

あの最高のメンバーで最高のチームなら絶対に勝てるという自信はありましたが、練習でやったことのない走順で不安もあったので、優勝でき本当に嬉しかったです。今後は、個人でも活躍できるように頑張りたいです。

【4走 佐々木 悠 (名古屋市立富士中学校)】

他県は高校生もいたが、中学生4人で優勝でき、とてもよかった。急遽アンカーになり、プレッシャーや緊張もあったけれど、怪我をして出られなくなってしまった選手の分までアンカーとして走り、前を走るチームを抜いて日本記録を出すことができ、よかった。

【男子監督 磯部 慶 (豊田市立逢妻中学校)】

練習会では、あらゆるオーダーを想定し、選手同士でコミュニケーションをとりながら、選手主体でバトンパスの技術を高めた。2回のテストレースを含め、全選手がこのチームでのレースを経験した。選手の優勝への気持ちの強さが彼らの精神的な部分も支えた。優勝と日本記録に繋がったのは彼らのレベルの高さと、今まで築いてきた愛知県選手の活躍のおかげである。彼らのレースがさらなる愛知県のレベルアップへ繋がることを願っている。



16年ぶりの日本中学新記録

(中小体連 秋山 真一郎)

全国中学駅伝大会に出場して

1区・池田 壮吾 (3年)

自分がずっと目標にしていた全国の舞台に立ててとても嬉しかったです。走っていること自体が夢のようで、走っている最中もとても楽しかったです。

2区・服部 恵吾 (3年)

全国という大舞台で緊張もしましたが、それよりも楽しい気持ちが勝ち、今までで一番楽しい駅伝でした。ここまで主将だった自分についてきてくれたチームのメンバーには感謝しかありません。

3区・一柳 航 (3年)

全国駅伝はとにかく楽しかったです。1年間夢見ていた舞台で走ることができ、諦めずに続けてきてよかったと感じました。これまでの過程でサポートや応援をしてくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

4区・高橋 累 (1年)

走っている時にたくさんの応援の声が聞こえ、それが走る力となり、最後まで悔いのない走りや襷をつなぐことができました。これからもチーム一丸となって頑張っていきます。

5区・西井駿乃介 (1年)

緊張しましたが、楽しく走ることができました。襷を繋げられるように、自己ベストを出せるようにと考えながら、一生懸命走りました。全国大会を通して、チーム一丸となって襷を繋ぐ駅伝の楽しさを学びました。これからも頑張っていきたいです。

6区・西井 健真 (3年)

襷を受け取るまでは、全国という大きな舞台で走ることには緊張しましたが、仲間の頑張っている姿を見て、少しでも前でゴールしようという思いで走りました。その結果、全体で16位、個人で区間3位という結果を残せて、とても自信につながりました。

本校陸上部では、大口町で長距離のクラブチームを運営している方が外部コーチとして継続的に指導にあたっています。今回の結果は、学校の部活動と地域での活動の双方の利点を生かして、生徒が思う存分活動できる環境を提供できたおかげだと思います。今後も学校と地域が繋がり、よりよい学校・町づくりを目指していきたいです。



念願の全国大会
(大口中学陸上部顧問 安藤 佑真)

理事会等会議報告

○11月理事会 令和6年11月27日(水) 18:00

教育会館

1. 協議事項

- ① 全国都道府県対抗女子駅伝・男子駅伝選手選考について
- ② 各種栄章候補者について
- ③ 愛知県スポーツ協会被表彰者について
- ④ 審判員昇格候補者について
- ⑤ その他

2. 報告事項

- ① 令和7年度日本陸連主要競技会について

- ② 各種大会結果報告
- ③ 陸連関係会議報告
- ④ 各専門委員会報告
- ⑤ 各地区陸協、協力団体より

○1月理事会 令和7年1月22日(水) 教育会館

1. 協議事項

- ① 令和7年度年間競技日程について
- ② 小学生の登録について
- ③ その他

2. 報告事項

- ① マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知について
- ② 犬山ハーフマラソンについて
- ③ 各専門委員会報告
- ④ 各地区陸協・協力団体からの報告
- ⑤ その他

(水野 隆夫)

栄 章

おめでとうございます

令和6年度愛知県スポーツ協会表彰

・功労賞

鈴木 康雄 本間 順子

・特別優秀選手賞

川端 魁人

・優秀選手・監督賞(国際大会入賞)

川端 魁人 太田 智樹 小川 大輝

大島 健吾 山本萌恵子

・日本選手権大会等優勝

山本 聖途

(水野 隆夫)

◆◆◆ 愛知陸協 90周年記念誌完成 ◆◆◆

多くの方々のご協力をいただき、90周年の記念誌が完成いたしました。この10年間の歴史が刻まれており、愛知陸協としては、60周年から4冊目となります。

登録団体や審判員の方に販売したいと思っておりますので、ご希望の方は愛知陸協 HP から購入手続きをお願いいたします。

(90周年記念誌委員会)

編 集 後 記

委員会や地区報告を原則年1回にしました。特集記事はいろいろな人を書いてもらっています。2月に入って、日本新記録、世界新記録が連続して出され、編集作業もうれしい悲鳴を上げています。新しいシーズンも、好結果に沸くことを期待します。

編 集 委 員

赤尾 和雄 竹前 正直 茶谷 和彦 新見 精三
秦 聖喜 兵藤 重二 山下ゆかり